

すくわくプログラム推進事業実践報告書

所在地	東京都新宿区戸山2-34-101
施設名	ChaCha Children Higashitoyama

1. 活動のテーマ

<テーマ>

(テーマごとに作成してください。)

多文化共生

<テーマの設定理由>

(テーマの設定に活かした園の環境や強み、設定したテーマに子供の興味関心があると判断した理由について、必ず記載してください。)

①テーマの設定に活かした園の環境や強み

エリアの特性から様々な国の子どもと一緒に過ごしていることから世界に対する興味・関心を広げる活動が充実している

②設定したテーマに子供の興味関心があると判断した理由

園に在籍する子どもたちの国の朝の挨拶を歌詞にしたアレンジ曲を園で作ったときに、歌を通して挨拶を覚え、その挨拶を使ってコミュニケーションを取ることを楽しむ様子があったため。

2. 活動スケジュール

(活動について月ごとのスケジュールを記載してください。)

4月：テーマ『挨拶、自己紹介、感情と気持ち』 日本の文化に合わせたゲームを通してテーマにそった活動を英語を使って行う

5月：テーマ『数字の数え方』 エジプトの文化に合わせたゲームを通してテーマにそった活動を英語を使って行う

6月：テーマ『形と色』 キューバの文化に合わせたゲームを通してテーマにそった活動を英語を使って行う

7月：テーマ『動物』 バリ（インドネシア）の文化に合わせたゲームを通してテーマにそった活動を英語を使って行う

(活動について月ごとのスケジュールを記載してください。)

8月：テーマ『食べ物と飲み物』 アメリカの文化に合わせたゲームを通してテーマにそった活動を英語を使って行う

9月： テーマ『天気と季節』 パラワン（フィリピン）文化に合わせたゲームを通してテーマにそった活動を英語を使って行う

10月： テーマ『反対語（大きい・小さいなど）』 ドイツの文化に合わせたゲームを通してテーマにそった活動を英語を使って行う

11月： テーマ『乗り物』 シチリア島（イタリア）の文化に合わせたゲームを通してテーマにそった活動を英語を使って行う

12月：テーマ『体の部位（手・足・頭など）』 カナダの文化に合わせたゲームを通してテーマにそった活動を英語を使って行う

1月：テーマ『ダンスとリズム』 ブラジルの文化に合わせたゲームを通してテーマにそった活動を英語を使って行う

2月：テーマ『お手伝い』 グリーンランドの文化に合わせたゲームを通してテーマにそった活動を英語を使って行う

3月：テーマ『Review』今年度を振り返って好きなゲームやダンスを英語を使って行う

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、活動の場所や準備した素材、道具について記載してください。)

画用紙、セロハンテープ、養生テープ、マスキングテープ、紙コップ、油性ペン、電子ピアノ、スクリーン、プロジェクター、音響機器、カラーボール、フラフープ、バケツ、動物の人形、食器洗い用スポンジ、パソコン

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

毎月テーマにそって国を設定し、外国人講師と一緒に英語を用いた歌、ゲームやダンスなどの活動を行っている。テーマとなる国に合わせたストーリーの紙芝居で導入を行い、そこで触れた英語を用いて講師とコミュニケーションを取ったり、ゲームやダンス、歌などを通して様々な国の文化に触れている。講師がいない普段の遊びの場面でも、部屋にある地球儀でテーマとなる国の場所を確認したり、国旗のカードを使って活動で出てくる国の国旗を探して遊ぶことを行った。また活動で出てくる単語について絵と文字を使ったカードを事前に保育者が製作し、子どもたちが自由に触れることができる環境を整えた。またピアノに合わせて英語で歌を歌ったり、ダンスを踊ることで講師がいないときにも英語に触れる時間を作っている。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

講師が「how are you?」と子どもたちに問いかけると「good」や「sleepy」と英語で反応したり、講師の発言を反復して英語を発したりしていた。繰り返し活動を行う中で、英語に親しみを感じている様子があった。保育者は子どもたちの様子を観察し、内容に添って、ヒントを織り交ぜながら日本語で説明し、子どもたちの理解を深めるため動いた。また毎月最後に行う講師とのミーティングでは今の子どもたちの興味関心事との調和をはかるため、改善点を提案し、次回の内容へ反映させた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

紙芝居、歌、ダンスやゲームを通して様々な国の文化について触れ活動を行うことで、その楽しさが子どもたちの心に残り、回を重ねるごとに興味関心が増え、臆することなく英語を使って講師とのやり取りを行い、よりスムーズになっていく姿があった。ただ英語を覚えたり話したりするのではなく、自分が普段使っている日本語との違いに気付いたり、その音の響きの面白さに気付いたりすることができる活動だった。講師がいない活動の時間でも歌やダンス、その中に出てくる言葉に触れる時間を設けたことでより興味関心を高めていたと考えられる。